

# Stage Up

生涯学習情報誌  
ステージ・アップ  
2008年10月1日発行  
隔月発行・通巻No.164  
小誌はホームページからも見られます



濱田庄司 「白釉黒流掛大鉢」1967年

## もくじ

- 2 情報ポケット
- 3 施設めぐり
- 4 特集 川崎市市民ミュージアム
- 6 まち・ひと・多面体
- 7 シニアのパレット

## 誌上ギャラリー

陶芸家濱田庄司（1894～1978）は、益子焼で知られるが、川崎市出身で、幼年期を多摩川で過ごしている。代表作である大きな鉢は、直径50cm、深さ15cmほどあって、大人が一人で持ち上げるのがやっとである。この大画面に大胆に施された文様は、勺ですくった釉薬を流しかけたもの。実際に描く時間は15秒、それに到達するのに60年という濱田の有名な言葉は、この流掛をしている時に盟友バーナード・リーチに向かって言ったものである。川崎市市民ミュージアム蔵

人間国宝濱田庄司展 10月4日(土)～11月30日(日)



(財)川崎市生涯学習財団

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1  
TEL 044 (733) 5560(代)/FAX 044 (739) 0085

<http://www.kpal.or.jp/>  
ステージ・アップ TEL 044 (733) 5811  
E-メール: [stage-up@kpal.or.jp](mailto:stage-up@kpal.or.jp)

当財団は市民の主体的な学びと活動を支援するため諸事業を推進しています。

# 情報ポケット

財団主催の各種講座の案内やお知らせ

## かわさき市民アカデミー第14回学園祭

「学ぶ喜び 笑顔がひろがるアカデミー」

学園祭はアカデミーに学ぶ受講生が、1年間の学習の成果を発表や展示といった形で広く市民の皆様へ公開しております。また、地域にお住まいの方々との交流を図るため外部から講師を招いての講演会、シンポジウム、フリーマーケット、喫茶店等多彩な催しを企画しております。

皆様お誘いの上ご来場ください。

### 11月15日(土) -川崎市生涯学習プラザ会場

- 第14回学園祭記念講演&シンポジウム
  - 1部 10:30~12:00 市民トークの会 講演  
「市民大学(大正から現代まで)の歴史を語る」
  - 2部 13:30~15:30 シンポジウム  
「アカデミーの現状と将来」
- 受講生OB・OGのかわさき市民フロンティア
  - 13:30~15:00 朗読の会 研究発表  
「耳なし芳一のはなし」-八雲の愛した日本語
  - 15:00~16:30 環境部会 講演  
土井彰(エネルギー環境教育情報センター)  
未来に向けて「エネルギー・環境・発展」を考える
- 「環境とみどり」ワークショップ(ゼミナール) 講演
  - 13:30~15:00 廣崎芳次(NPO法人神奈川県自然保護協会副理事長) 講演  
「海の影響力~魚はいなくなるのか」  
私たちの暮らしへの影響や警告等、さらに水産海洋都市構想まで学びます
- 友の会の展示コーナー(15・16日両日開設)
  - 10:00~16:30  
展示「野外研修のパネル展示と写真展」  
友の会主催の野外研修を写真とパネルで展示  
昨年好評だった古本市を開設いたします。

### 野外企画

- ※ いずれも申し込みが必要です。
- 11月14日(金) 13:30~17:00 東 昭(東京大学名誉教授)「記念講演とミットヨ工場見学会」
- 11月15日(土) 10:30~14:30 石井誠治(樹木医) 自然観察:目黒「自然教育園・東京都庭園美術館」
- 11月16日(日) 10:30~14:30 石井誠治(樹木医) 自然観察:川崎市近郊の公園か緑地観察
- 11月20日(木) 13:30~17:00(先着順) 映像オペラ『セビリヤの理髪師』を楽しもう  
川崎市国際交流センターホール  
問い合わせ 映像オペラ担当 ☎044-533-2390

### 11月16日(日) -川崎市生涯学習プラザ会場

- 世間の注目を集めている問題に焦点を当てました  
10:30~12:00 平野聡(東京大学准教授) 講演  
「チベット問題の本質と今後の中国情勢」  
北京オリンピック前に起こったチベット問題とは
- サッカー川崎フロンターレの社長を招いて  
13:30~15:00 武田信平(株式会社川崎フロンターレ代表取締役社長) 講演  
「サッカーを通してのまちづくり-川崎フロンターレの戦略と実践」  
地域社会との共生をテーマに地域密着型企業を目指す川崎フロンターレの戦略と実践を学びます
- フェルメールの魅力について学ぶ  
13:30~15:00 小林頼子(目白大学教授) 講演  
「光の天才画家フェルメールの魅力」  
『真珠の耳飾りの少女』『牛乳を注ぐ女』等、日本で最も愛される画家フェルメールとは・・・
- EUへの加入か、揺れるトルコを追う  
10:30~12:00 澁澤幸子(トルコ研究家) 講演  
「トルコという国、その歴史と現状」  
ヨーロッパとアジアにまたがるトルコの行方は・・・
- 川崎学と市民館の講座等からの研究成果発表  
13:30~16:00 川崎学フォーラム企画委員会 講演  
「川崎学・地域学フォーラム~歴史・民俗の視点から川崎を考える」 村上直(法政大学名誉教授)



問い合わせ先  
川崎市中原区今井南町514-1 川崎市生涯学習プラザ  
かわさき市民アカデミー 学園祭実行委員会事務局  
☎044-733-5590

財団が管理運営する施設を紹介

施設めぐり

○大山街道ふるさと館

～「文化講演会」のご案内～

- ◆第1回 11月8日(土) 池上真由美氏  
「江戸庶民の山岳信仰」  
・富士山、高尾山、大山、御嶽山など近郊の霊山の歴史信仰の形態を探り、それぞれの霊山との関係や信仰の道など江戸庶民の山岳信仰にスポットをあてる。
  - ◆第2回 11月22日(土) 村田文夫氏  
「縄文のムラと住まい」  
・川崎市内の遺跡で最も多いのが、縄文時代の集落跡である。高津区・宮前区の縄文集落遺跡から「家族とは」「ムラとは」の原点を探る。
- ◎開演時間 午前10時から  
◎申込方法 ハガキ1枚につき第1回又は第2回と希望を記入(無料・先着順64名)  
◎申し込み先 〒213-0001  
川崎市高津区溝口3-13-3 大山街道ふるさと館  
★問い合わせ ☎044-813-4705

○青少年の家 ～汚れた水がきれいな水に～

第3回こどもエコチャレンジクラブ(青少年の家の主催事業で、市内の小・中学生を対象に環境についての体験を通した「子ども仲間づくり」)を、8月1日(金)に青少年の家で開催しました。

今回は、川崎市公害研究所の職員の指導で水の浄化実験を行いました。



洗剤の「ろ過実験」をしました。黄色が透明になり、レモンの香りがなくなりました。モバイルウォーターの浄化能力実験では、自転車をこぐと、きれいな水が蛇口から出てきたのでビックリしました。(浄化実験を行った子どもの感想)

★問い合わせ ☎044-888-3588

○麻生スポーツセンター

～体育の日記念事業～

10月13日(月・祝)の体育の日を記念して次の個人開放を無料で実施します。是非ご参加ください。

- ☆大体育館 9:30～11:00 エアロピクス  
14:00～15:30 健康体操
- ☆小体育館 9:00～12:00 卓球  
13:00～16:30 卓球
- ☆第一武道室 10:00～11:30 太極拳

○子ども夢パーク ～夢まつり08 祝5周年～

7月21日(月・祝)5周年を迎えた子ども夢パークでは、恒例の「水遊びスペシャル」・屋台が並ぶ「レインボー商店街」・飛び入り大歓迎の「ミニステージ登龍門」に加え、「5周年記念セレモニー」を開催しました。フィリピンのパンプーダンス、中南米音楽フォルクロールの演奏、地域婦人部の協力による盆踊りなどが、セレモニーに花を添えていました。

ウォータースライダーや色みずあそび、当日限りの『4tプール』『ドラム缶風呂』、8mの高さまで飛ぶ『竹製水鉄砲』は、行列ができるほどの人気。受付前で開催した「おさがりバザール」は、着替えを持ってこなかった子どもたち、お母さんお父さん方に大好評でした。

◇11月3日(月祝)は、『こどもゆめ横丁』です。



★問い合わせ ☎044-811-2001

○宮前スポーツセンター

～大好評!「新体力相談講習会」の紹介～

健康の維持増進に興味のある方、メタボリックシンドロームにお悩みの方、これから新たにスポーツを始めようとしている方などにお勧めなのが「新体力相談講習会」です。当センターで作成した体力測定解析ソフトにより、右のような「体力プロフィール」などで自分の体力を評価できます。

また健康運動指導士による「体力相談」も含まれています。

★問い合わせ ☎044-976-6350



- ☆第二武道室 13:30～15:00 ヨガ
- ☆トレーニング室 9:00～12:00 13:00～16:30  
17:00～20:30

※トレーニングウェア、室内シューズ、タオルをご持参ください。尚、用具の貸出しはしませんので、卓球利用の方は、用具をご持参ください。

※トレーニング室のご利用は中学生以上です。

★問い合わせ ☎044-951-1234

## 特集 開館20周年 生まれ変わる 川崎市市民ミュージアム



川崎市市民ミュージアムが開館して20年。いまでは日本文化として海外でも評価されている漫画に最初に注目した美術館としてもよく知られ、2005年には手塚治虫文化賞を受賞しています。ほかにも評判になった展覧会をこれまでに数多く開催してきました。ところが、ピーク時には年に30万人いた入館者が一時は8万人にまで落ち込み、存続の危機が迫りました。重大な役割を担っているのに来館者が少ないという事態に、懸命に改革に取り組み、昨年は17万人に回復。いまミュージアムは着実に変わりはじめています。

### 市民ミュージアムには川崎がある

川崎ってどんな所？と問われて一言で答えられる人はどれぐらいいるのでしょうか。丘陵部から臨海部まで細長く、産業も多様で、古代の遺跡の近くにハイテク企業が稼働していることだってあります。学問や芸術の分野で活躍する人も多彩で、人々もさまざま。とても一言で語ることはできません。他市に勤める人も多くて、ときには川崎市民であるという意識が薄れることもあるでしょう。

それだけに、そこに行けば川崎の全貌がわかるというのは市民ミュージアムの大切な役割です。おのずと展示もコレクションも幅広くなります。そうでなくても、現代史を描くには文字資料だけではとても足りません。考古、民俗、歴史、写真、漫画、グラフィック、美術、映画、ビデオと、幅広い分野を抱えた背景にはこういう事情もあるでしょう。

この特徴は逆に市民ミュージアムの弱点でもあります。全てに対応しようとすれば手薄になるのは避けられませんが、全体を統括するのも難しくなります。ピーク時には30万人だった入館者が少しずつ減り、一時はとうとう8万人に。関係者の間に危機感が走りました。「民間ならつぶれている」という声が出たのはそのときです。しかし、それよりもシ

ョックだったのは、市民の間からミュージアムを擁護する声が出なかったことだといいます。

改善委員会の報告とそれをもとにした改革基本計画が出され、報告と計画に沿って、まず館長が公募されました。美術展の経験が豊富な民間出身の館長が着任し、そのもとの改革が始まりました。今年はその3年目です。

### 危機から改革へ 外部にひらき、つながり、資産をいかすことから

もともと市民ミュージアムは、漫画に注目した最初の美術館としてよく知られています。その活動が認められ、2005年には「手塚治虫文化賞」を受賞しています。ドラゴンボールで有名な「鳥山明の世界」展をはじめ「水木しげる」「横山光輝」展、ガンダムで有名な「安彦良和」展や「少女マンガパワー」展など漫画の分野でも注目される展覧会を数多く開催してきました。

映像の収集も充実しています。CMの時代性や面白さを伝える「世界CM映像祭」（1992年開催）も市民ミュージアムらしい企画として注目されました。



ワークショップ「ムナーリの『木』をつくらう」



高津市民館で開催された「ぐるっとミュージアム」

数々の名企画を実現しながら入館者が減っていく。それは公立のミュージアムの役割を改めて考える好機でもありました。ミュージアムは「展示という手法を駆使して誰にでもわかってもらえるように学問の成果を展示」し、逆に問題提起する力を持っています。それだけにミュージアムを外部に開き、つながり、市民と共に学び合う場を創造していくことが大切です。そのために今年から評価項目を定めて、外部評価委員会を設置し、開かれた運営に取り組んでいます。入館者数や歳入/歳出比など数値化できることは数値目標を掲げて評価しています。

ミュージアムを外部に開き、連携を深めるために小・中・高等学校との連携、大学との共同、地域の研究者との連携、地元との協力にも取り組み始めています。ミュージアムで一番目につくのが常設展示。「いつ見ても同じ」という印象を受けてきた展示を、最近はマンスリー展示や映像を利用して変えていこうとしています。

## 着実に変わり始めたミュージアム 入館者数17万人、歳入/歳出比6.5%へ

努力は着実に実り、入館者は8万人から17万人へ、歳入/歳出比は2.5%から6.5%へと改善されています。危機は改革のエネルギーになっているといえます。

7つあるそれぞれの区に出かけて実施している「ぐるっとミュージアム」は、その地にゆかりの収蔵品を展示し、市民との交流を広げていこうという好企画です。会場では幅広い人々の交流が広がっています。

学校にも出かけています。「ムナーリとあそぼう展」で計画した「出前授業」には6校が参加しました。他にも多くの子どもたちがワークショップに参加しています。二ヶ領用水の学習には84校が見学に来たといえます。

慶應義塾大学DMC統合研究機構との共同研究は新しい方向を示す好例です。桃屋から寄贈されたCMをもとに「食卓に映し出された“昭和”と日本の生活文化」に関する文化庁委嘱のこの研究は引き続きネット上でも動画配信されており、いつでも、誰でも見ることができます。

野焼き土器づくり大会運営委員会との共催による土器の

野焼き、中庭を利用したバンド演奏など地元との連携も広がっています。ミュージアムにあるベーゼンドルファー製のピアノを使った「キャンドルライトコンサート」では300人あまりの人が音楽とバレエを堪能しました。

市民が展覧会を開けるように貸しギャラリー（有料）も開設されました。ビジョンをもって市民と手をつなぐ。それが次第に実を結んできているようです。

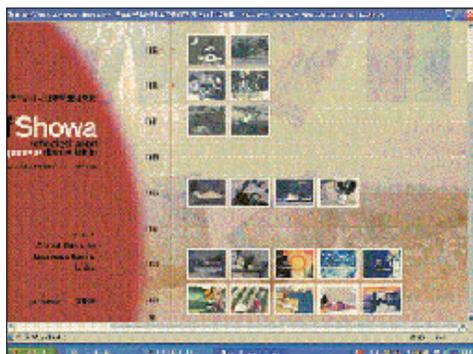
## 市民ミュージアムの役割について そろそろ市民も考えるとき

市内にたくさんある美術館や博物館と連携し、その要になることも市民ミュージアムに期待したいことです。

等々力緑地にはいろんな施設があり、人も大勢集まります。駅から遠いことを逆に生かし、関係者が力を合わせれば、「半日は周辺で過ごせる」魅力ある地域にすることも無理ではありません。遠いといっても、ゆっくり歩いて30分。二ヶ領用水沿いの道は快適です。発想を変えればこれも街に眠る資産です。いかせば素敵な遊歩道になりそうです。「門前町効果」も期待できます。

メディア芸術に川崎市市民ミュージアムの特徴があるので、それをいっそう充実して「メディア芸術の殿堂」といわれるような「独自性」を築いていくこともできそうです。ミュージアムの施設内の活動に留まらず、学校や地区に出かける「出張展示」、昭和の食卓展のように、インターネット上での展示、動画配信なども今後いっそう追及したい方向です。

この機会に一人ひとりの市民が市民ミュージアムの役割を改めて考えてみてはどうでしょう。市民ミュージアムに行けば川崎がある。川崎の歴史、民俗、産業、芸術について全体が理解できる。ゆかりの芸術家の作品にもふれることができる。そういう学びの場としてもっと活用したいものです。改革の仕上げには市民ミュージアムの役割についての市民の理解が欠かせません。市民ミュージアムの新しい姿もそこから浮かんでくるはずです。



<http://www.documentshowa.jp/> ご覧ください



二ヶ領用水沿いに歩いて武蔵小杉まで約2km

## まち・ひと・多面体

### 子どもたちが楽しんだ

#### ワークショップ ムナーリの「木」をつくる

市民ミュージアムの「ムナーリのアートとあそぼう」展ではワークショップがたくさん用意されました。なかでも7月21日のワークショップ「木をつくろう」は圧巻。講師は子どもの城造形事業部の有福一昭さんです。

学校の体育館より広い「逍遙空間」の床に敷いた10メートル四方のシートいっばいに枝を広げた大きな「木」をつくりました。材料は薄茶色の模造紙。それを縦に切り、幅の広い方から順に幹、枝、小枝に見立てます。

そこに顔より大きな葉っぱや花をつけていきます。模様は



全く自由。最初は一目で木の葉とわかる絵を描いていました。床に寝そべったりしているうちに気持ちがほぐれたのでしょうか。アメーバーや渦巻きなど、葉のイメージから解放された模様が登場してきました。そうなるともう子どもの世界。表情も柔らぎ、色も形も自由になっていきます。「それ何描いているの」と訊ねたお父さんに「わからないの？これは花！こっちは蝶！」と説明する声が弾んでいます。幹に虫の行列を描いている子もいます。「木をつくる」という「制約」と、どんな葉っぱを描いてもよい「自由」とのバランスがよいでしょうね。

「私もやりたい」とその光景を見ていた小さな子が一緒にいたお婆さんにねだっていました。ちょっとはしゃいでいて足を滑らせ、「枝」を折ってしまった子がべそをかいています。「いいよいいよ、直しとくから。描いといで」と言われてパッとその子の表情が明るくなりました。

描いてもかいても葉はまばら、なかなか冬枯れから抜けられません。最後に皆で大きな「木」を持ち上げ、高く掲げたり、膝下に下げたり。たっぷり遊んだ作品はムナーリ展の会場に展示されることになりました。

レシピが同じだからといって同じ料理ができるとは限らないもの。子どもを相手にする場合も難しさはそこにあります。さすがはムナーリから直接手ほどきを受けた講師。そこが実に巧みです。子どもが楽しんでいました。

### この夏、はだしのゲンになってみた！

#### 平間わんぱく少年団

「平間わんぱく少年団」は、地元中原区で和太鼓を学び30年。8月3日の創立記念公演「和太鼓と平和の願い 大空へ」では、小学校1年生から中学校3年生の子どもたちが和太鼓だけでなく、「はだしのゲンを旅する」という「歌構成劇」に挑みました。

彼らにとって想像もつかない戦争を「はだしのゲン」（太平洋戦争末期からの広島物語）を読み、その怖さ、辛さを感じ、同じ年くらいのゲンやゲンの兄弟の体験から学びました。本番前3週間毎日、指導者の山本忠利さんの演出をうけ、少年団の父母やOBの和太鼓集団「祭音(まつりね)」の協力も得て、総勢101名の群集が舞台に立つ迫力には圧倒されました。

舞台は、1945年8月5日広島から始まる。「リトルボーイ」という名の原子爆弾投下前、普段の平和な情景では、台詞を弾ませて「人間は自由だー」「おーーい、一緒に歌わないか」「むくむくむく」「足の裏をくすぐる土」「力いっばい踏みしめれば大地の温かさ」「高い山」「人間はたくましいー」と大合唱・・・はだしのゲンを読んで気づいたことは「60年よりもっと前、日本は戦争をしていたそうです」「ほくたちのお母さん、お父さんは戦争を知りません」と台詞で表現...聞いたこともないドカーンという爆弾の炸裂音に倒れ...

なつえ（ケロイドの顔）が悲しげに言う「良いことは、ひとつもないと思いました」。みんなが言う「絶対に戦争はいやです」「絶対に原爆はいやです」...「麦になるんじゃ」というゲンのお父さんの言葉から...一人ひとりが噛みしめるように「ラララ」と平和のコーラス（写真）に続いてフィナーレには、「麦の穂よ 伸びろ 穂先を伸ばしてつきあげろ」「自由と夢を追っていけ、宇宙の果てまで伸びていけ」と自分たちの未来を歌い上げました。

子どもたちはいつも和太鼓の練習に懸命です。でもこんな風に和太鼓の練習で培ったチームワークやさすがすがすがしい子どもらしさと体の芯がぶれることなく演じる力を活かし、平和の大切さを訴えた経験は、一生演じた彼らも観客も忘れられないでしょう。こんな経験させてみませんか。

問い合わせ 平間わんぱく少年団 代表 山本忠利さん

☎044-533-7470



## ただ今 猛稽古中！ 上演が待ち遠しい 市民劇「池上幸豊とその妻」

川崎区の池上新田という地名にその名を残す江戸時代の偉人、池上幸豊の評伝劇「池上幸豊とその妻」の稽古が暑い夏の間も積み重ねられてきました。6月15日のオーディションには多くの大人に混じって5名の子どもたちの姿がありました。自己紹介の場面では「声が小さい！体育館で300人ぐらいの人がいるつもりで話せ！」と厳しい声が飛ぶこともありましたが、オーディションのときは、地元の劇団で訓練してきた人と一般応募の市民との違いは歴然としていたのですが、稽古を重ねるうちにその差も縮まってきています。演出家の具体的で的確な指導が実を結んでいるのを見ていると11月の上演が待ち遠しくなります。



池上幸豊は1718年生まれの人。江戸時代の人。貧困にあえぐ大師河原の農民を助けるために遠浅の海を干拓し、約15ヘクタールの新田を開発しました。幸豊はサトウキビや梨、ぶどうなどの果実も栽培したといいます。市民劇では2年前に、田中兵庫の評伝劇を上演し、好評を得ましたが、今回はそれに続くものです。

ひととき暑かったこの夏の間も夕方から定期的に稽古が続けられてきました。台詞にも気持ちこもり、次第に身体が乗ってきているのがうかがえます。9月からは立ち稽古に移り、動きも加わってきて、一段と厳しい稽古になることでしょう。その成果は11月11日、12日の中原区にあるエポック中原の公演から始まり、22日の教育文化会館で2回、12月5、6日の麻生市民館での公演まで合計6回上演される予定です。演出は長く前進座の演出に携ってきた香川良成さん、脚本は前回の「田中兵庫物語」と同じく小川信夫さんです。

上演にちなんで池上幸豊に関するシンポジウムが開かれてきましたが、その第4回目が水鳥祭（酒呑み合戦）見学を兼ねて10月19日に大師で行われます。希望者は、10：30大師駅前集合。その後史蹟巡り。

問い合わせ ☎044-200-9822

# シニアのプレゼント

## オオカミに守られて・・・ 記録映画「オオカミの護符」が 捉えた暮し



オオカミといえばたいい悪役です。それがお札として人々のお守りになっている。なんとも不思議です。でも不思議に思うほうが間違っていたのです。ドキュメンタリー映画「オオカミの護符」はそこを描きます。

制作のきっかけは宮前区の土橋の農家で育った小倉さん。ある日、自宅の土蔵にはってある見慣れたお札に目がとまりました。不思議なお札です。鋭い牙といい、尻尾といい、横を向いて座っている絵姿は狗には見えません。新しいお札の周囲には何度も貼り重ねたお札の跡もあります。土橋地区では今も毎年地区の代表者が東京の青梅にある御嶽神社にお参りしてこのお札をもらってきているのです。きけば狗ではなくオオカミだといいます。

「それにしてもどうしてオオカミがお札に？」わいてきた疑問を解くように撮影を進めていくと、東京の調布市、埼玉県秩父、三芳など関東一帯に同じようなオオカミの護符をはる風習があることがわかってきました。

いまでは絶滅したオオカミですが、関東地方の山岳部には昔オオカミが棲んでいました。そのオオカミが吼えると猪や鹿が一斉に逃げ出したといいます。作物を荒らす猪や鹿を追い払う。オオカミが農家のお守りになったのも納得できます。映画にはそのオオカミが棲んでいた山に手を合わせるお百姓の姿がありました。その人は「個々の山がどうかじゃない。総称としての山『お山』に手を合わせているんだ」といいます。今ここで農業が営めるのは遠くに霞むお山のおかげだというのでしょうか。その目は、流行の「環境」問題を説く私たちよりも確かに、暮しとお山をひとつながりに見据えているようです。

上映される度に反響が広がっている「オオカミの護符」は次の予定で上映されます。詳細は下記へ

ポレポレ東中野：10月4日～ ☎03-3371-0088

川崎市アートセンター：10月18日と21日

☎044-955-0107

(財)川崎市生涯学習財団 地域ふれあい事業



恒例のフリーマーケットを、かわさき市民アカデミーの学園祭に合わせて開催します。

日 時:11月15日(土)  
10時 ~ 15時  
※雨天時は翌16日(日)

問い合わせ  
フリーマーケット実行委員会  
☎ 044-733-5560

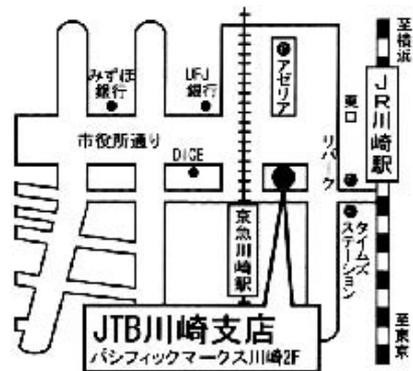
11月15日(土)

フリーマ  
に行こう!!

2008シーズン  
川崎フロンターレ  
応援アウェイツアーへ  
GO~ル

ツアーの申込はJTB首都圏川崎支店へ  
詳しくは、フロンターレ担当 ☎044-211-1153

JTB 川崎支店 検索



OVER

大成建設グループ有楽土地の〈オーベル〉シリーズ。  
暮らしの豊かさと同まりを大切に、価値ある生活環境を追及しています。



「オーベル丸の内プラザ クラリティコート」イメージパース

<http://www.yuraku.co.jp>



国土交通大臣(12)第968号(社)不動産協会会員  
(社)首都圏不動産公正取引協議会加盟  
**有楽土地**

〒104-8330 東京都中央区京橋3-13-1 有楽ビル  
TEL.03-3567-9411